

学生野球競技者におけるグラブ選択に関する研究

Research on factors of student baseball player's glove selecting behavior

1K08B199-1 丸山 修平

研究指導教員 主査 木村 和彦 先生 副査 原田 宗彦 先生

1. 序論

野球用グラブは選手によって幅はあるものの、通常1年以上、場合によっては10年以上使用される。そのため、野球競技者は慎重にグラブ選択を行う。論文検索サイト「CiNii」で「野球 グラブ」で検索すると7件、「野球 グローブ」で検索すると5件がヒットするが、いずれもグラブ選択に関するものではなかった。(2011年11月24日現在) 本件では早稲田大学の野球サークルに所属する大学生を対象に多種多様のグラブからどのような基準でグラブ選択を行っているのかを調査した。各ポジションや野球をする目的、野球歴、競技レベルといった競技者特性がグラブ選択に与える影響を明らかにすることは今後のグラブ開発や、販売促進に大きく寄与するものであると思われる。

2. 研究方法

調査期間は2011年10月21日から22日で早稲田大学の野球サークルに所属する大学生を対象に調査し、有効回答数は58であった。競技者特性ごとによるグラブ選択の要因をはかるため、質問紙調査に基づく項目間の比較分析を行った。競技レベルと野球をする動機による差をはかるため、【上級者】【愛好者】、【競技志向】【非競技志向】のグループを作った。統計処理及び分析は、SPSS Statics 18.0を使用し、統計的有意性の水準はすべて5%未満とした。

3. 結果・考察

投手は「ウェブデザイン」や「ラベルデザイン」、「メーカー」といったグラブの外観を重視していた。これはグラブを他のポジションに比べて守備の道具としてではなく、一種のアクセサリーとして認識していると考えられる。逆に内野手は投手よりも「フィット感」を重視しており、投手よりも守備の道具としての意識が高いと感じた。【愛好者】はブランドスイッチの理由、最重視項目で「カラー」「知人やコーチによるアド

バイス」が共通していた。これは【上級者】に比べてグラブの選択基準が自身の中に確立されておらず、周囲の意見や、機能性とは無関係なものを基準としていると考えられる。【競技志向】の選手に共通して見られた要素はなかったが、選択要因で明らかになった「メーカー内ブランド」を重視している点は興味深い。【競技志向】の選手は、プロや高い戦績を目指している選手である。甲子園大会やプロ野球を見ると各メーカーの最高ブランドを使用している選手が大半を占めている。本研究の調査対象は野球サークルに所属している大学生だが、そういった選手も甲子園大会やプロ野球に影響されている可能性がないとは言えないだろう。

【高価】なグラブ使用者は「有名選手や憧れの選手の影響」を重視していた。これも【競技志向】【非競技志向】と同じく、甲子園大会やプロ野球を見ると各メーカーの最高ブランドのグラブを使用していることが多いため、プロ選手と同じグラブを購入しようとするとな必然的に【高価】なグラブを買うことになっているものと考えられる。

4. まとめ

競技者特性ごとに特徴のある分析結果が表れた。今後、各グラブメーカーはターゲットを細分化して絞っていくことが必要である。また、特定の競技者特性で重視されていた「フィット感」は数値化することができず、具体的にどのようなフィット感が好まれるのかという段階まで言及できなかった。無論、手の形や大きさは十人十色であり、また、それぞれが好む「フィット感」も多種多様である。このテーマを研究するためには典型的な特徴を持つグラブをいくつか抽出し、それらを選択するコンジョイント分析のような研究手法を用いることが必要だろう。この研究が今後のさらなる研究に寄与することと考える。

